

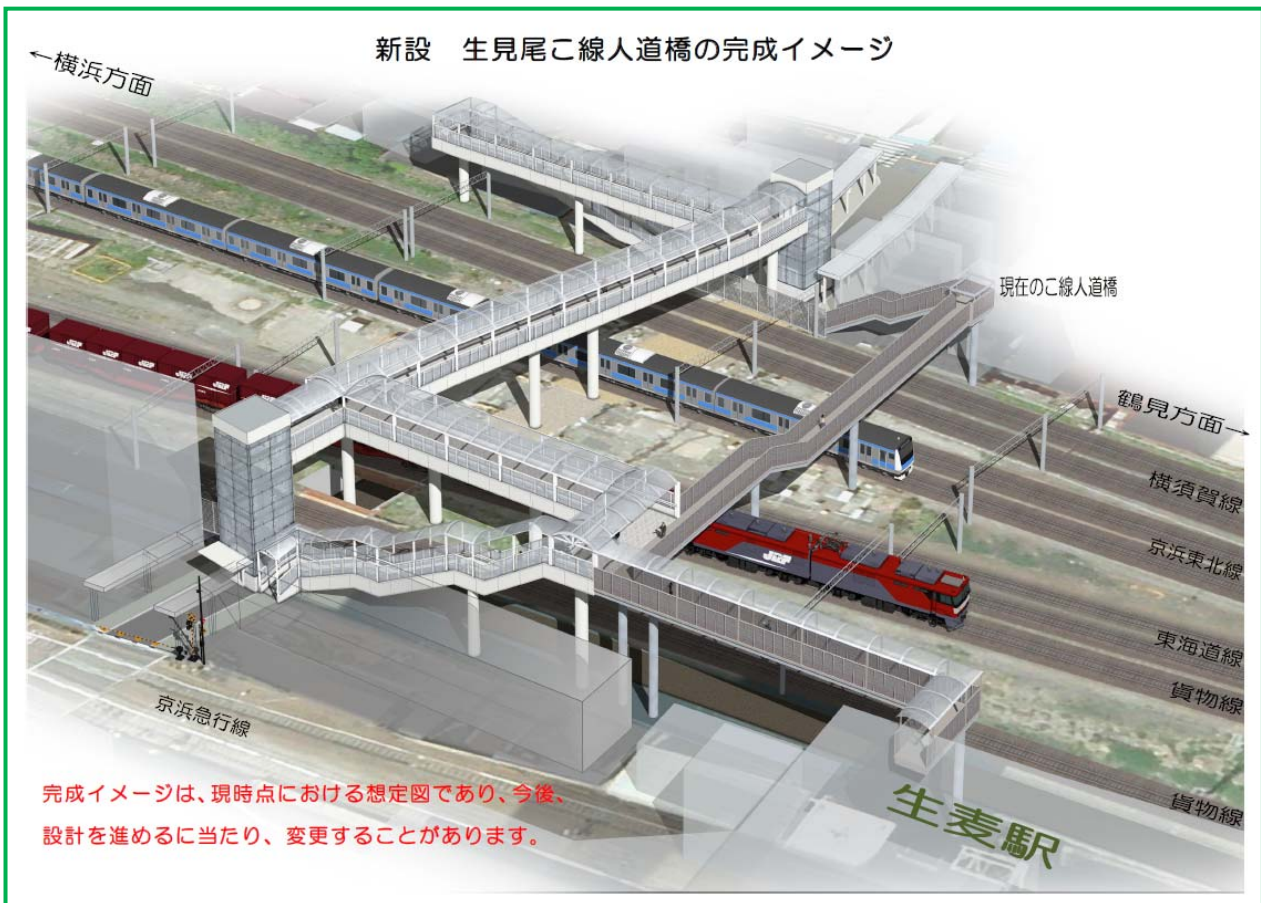
「生見尾踏切」安全対策ニュース

～ 踏切の安全対策のため「こ線人道橋」を整備します ～ 発行：横浜市道路局

生見尾踏切を利用する方々へ、横浜市が進めている安全対策に関する情報を提供するため、継続的に安全対策ニュースでお知らせしていきます。

昨年 8 月に生見尾踏切（鶴見区）で起きた死亡事故から 1 年が経ちました。横浜市では同じ事故を繰り返さないよう、踏切利用者が安全に通行できる新しい「こ線人道橋」を計画しています。

新しい「こ線人道橋」には、**高齢者やベビーカー利用者が安心して渡れるとともに自転車にも配慮した大規模なエレベーターと斜路付階段**を設けていきます。なお、今後は詳細設計を行い、その後**2 年程度での完成**を目指していきます。



整備する「こ線人道橋」の規模

こ線人道橋の延長	約 60m（JR 横須賀線～JR 貨物線）
こ線人道橋の幅員	約 6m
エレベーターの大きさ	約 40 人乗り（自転車が 3～4 台乗れる規模）

◆こ線人道橋への屋根の設置について

踏切閉鎖による地域分断を解消するため、南北を屋根付の「こ線人道橋」で結びます。また、生麦駅へも雨天時に濡れないで行けるよう、屋根の設置を検討していきます。

現在の計画案に至る経緯

横浜市では、昨年事故後、11月には地域の方々に協力していただき「生見尾踏切安全対策検討会」を実施しました。

検討会では、新しく造る「こ線人道橋」のルートについて話し合わせ、複数の案についてJR東日本とともに実現性を検証した結果、地上と地下を走行する貨物線が影響することや、踏切近隣の複数の用地買収が必要となることから、今年3月に実施した最終の検討会で、早期に安全対策が図れる現在の計画案（踏切を閉鎖し踏切跡地に建設する案）を提案しました。

事業に伴う踏切閉鎖の必要性

横浜市では、以下の理由から、今後の超高齢社会において、将来にわたる安全性の確保ができないため、踏切を閉鎖する必要があると考えています。

- ① 生見尾踏切は、横須賀線と京浜東北線、東海道線を横断する延長約40mの踏切であるため、高齢者等が安全に渡りきるには、相当の時間を必要とします。（貨物線を横断する約20m区間は立体交差となっています）
- ② 高齢者等が安心して渡れるように、踏切警報機が鳴り始めてから遮断機が下がり始めるまでの時間を長めに設定すると、踏切の遮断時間※はさらに長くなってしまいます。（現在の遮断時間はピーク時1時間当たり45分）
- ③ 踏切内は鉄道の構造上、凹凸があるため、高齢者等の転倒などの危険性があります。

※ 踏切遮断時間：警報機が鳴り始めてから遮断機が上がり始めるまでの時間

御意見、御要望のある方は、下記連絡先にお問い合わせ願います。

横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL:045-671-2792 FAX:045-651-6527 メール:do-tetsudou-umio@city.yokohama.lg.jp

お問い合わせ時間 9:00~17:00（土、日、祝日以外）

なお、この資料は「横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当」のホームページでも閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/rail-cross/20110530-pln-fumikiri5-index.html>